

接続期に関する取り組み（幼稚園教諭による小学校生活科の授業）の記録

授業日 2024/10/18 10:10

事後研 2024/10/22 14:30

【保育のねらい】

- 身近な自然に触れながら、その性質や事象に興味関心をもつ。
 - ・砂の感触や性質に気付き、道具を選んだり、使ったりしながら工夫して遊ぶ。
- 砂遊びを通して、発見したり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。
 - ・自分なりのイメージを膨らませ、型抜きや穴掘りをしたり、山や道をつくったりして遊ぶ。
- 友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わう。
 - ・互いの思いや考えを伝え合い、イメージを共有しながら遊ぶ。

【授業の様子（個々の遊び）】





笹船





【授業の様子（全体の様子）】



最初のあつまり



幼稚園の砂場



小学校の砂場

授業の翌日（小学校の昼休み中）帽子をかぶっているのは園児



【事後研】

○小学校の先生の感想

- ・1年生が生き生きしていて、いつもと違う姿も多く見られた。
- ・普段あまり楽しいと言わない子が「楽しい」と言っていた。
- ・友達との関わりが少ない子が関わっている姿が見られた。
- ・遊びの中で協力したり、声掛けをしたりする姿が見られた。
- ・じゅうだまや落ち葉などの素材を置いてあって、自由に選んで取って遊んでいた。最初はそれでしか遊んでいなかったが、最後には砂や土を使って遊んでいた。小学校の授業では進度が決まっているため、砂や土以外で遊んでいたら、じゅうだまや落ち葉で遊び始めた時点で制限をかけてしまうことがある。
- ・伸び伸びして、やろうという気持ちが見られた。
- ・小学校では、座っての授業が多いため、表情がかたくなってしまうがち。
- ・楽しさがあり、その先に学びがあるのがよい。
- ・遊んでいる中にもたくさんの学びがあった。
- ・水が流れる時の高低差が必要なこと、泥団子を作る時の土のかたさ（濡れて茶色くなっている土、乾燥している白い土）によって固まり方が違うことなど課題に気づき解決している姿があった。
- ・道具に目が向いている子は教師の意図を越えてきていた。
- ・自由の中にも見えないルールがあって、子ども達が生き生きと楽しんでいた。
- ・子ども達の活動を価値づけることで教科にも繋げていける。

○成果

- ・幼稚園から見た小学校の授業についての理解、小学校から見た幼児教育の保育内容についての理解が深まった。
- ・就学前教育の大事にしているところを理解してもらえたが、それをどのように小学校教育に取り込んでいけるのかについて話し合えた。答えは出なかったが接続期の根本になる部分の話し合いができた。

○課題

- ・就学前教育に理解を示し、授業に取り入れてみようと考えてくださる小学校の先生が増えることを期待して、小学校との様々な交流や今回の授業実践を行なっている。そのことが今後、様々な中学校区で接続期を充実させていく基盤になればと考えている。
- それについては一定の成果は見られているが、多田幼稚園がこども園化する令和9年度までにどのような交流を行い、接続を深めていくかが明確でない。